

四条金吾女房御書

文永八年五月 五〇歳

懐胎かいたいのよし承り候おわひ畢ふんぬ。それについては符ふの事仰えらせ候。日蓮相承の中より撰えらみ出だして候。能よく能よく信心あるべく候。たとへば秘薬例なりとも、毒例を入りぬれば薬の用すくなし。つるぎ刻なれども、わる臆びれたる人のためには何かせん。就中なかんずく、夫婦共に法華の持者なり。法華經流布あるべきたねをつぐ所の玉の子出で生まれん。目出度めでたく覚えらへ候ぞ。色心二法をつぐ人なり。争いかでか遅をそな疾はり候べき。とくとくこそう生まれ候はむずれ。

此の薬をのませ給はゞ疑やみひなかるべきなり。闇ひなれども灯入りぬれば明らかなり。濁水にも月入りぬればすめり。明らかなる事日月にすぎんや。浄き事蓮華にまさるべきや。法華經は日月と蓮華となり。故に妙法蓮華經と名づく。日蓮又日月と蓮華との如くなり。信心の水すまば、利生の月必ずおう応たを垂れ守護し給ふべし。とくとく疾うまれ候べし。法華經に云はく「如是妙法」と。又云はく「安楽あんらくさんふくし産福子」云云。口伝相承くでんの事は此の弁公にくはしく申しふくめて候。則ち如来の使ひなるべし。返す返すも信心候べし。

天照太神は玉を素蓋雄の尊のみことにさずけて、玉の如くみこの子をまふけたり。然る間、日の神、我が子となづけたり。さてこそまさ哉あ吾勝とは名づけたれ。日蓮うまるべき種をさづけて候へば、争いかでか我が子にとるべき。「有一う宝珠ほうじゆ価直け三千」等。「無む上じょう宝聚ほうじゆ不求自得」ふくじとく「釈迦如来皆是吾子」かいぜごし等云云。日蓮あに此の義にかはるべきや。幸なり幸なり。めでたしめでたし。又々申すべく候。あなかしこあなかしこ。

文永八年五月 日

日 蓮 花 押

四条金吾殿女房御返事